

後奈良天皇女房奉書（折紙）

山科家断  
簡二所収

【釈文】

夕さり御ようの事候、御しこ<sup>①</sup>う候へく候よし申とて候、かしく、

〔見返シ奥ウハ書〕  
「やましなどのへ」

【漢字仮名交じり文・現代仮名づかいに直すと】

夕さり御用の事候。御祇候候べく候由申せとて候。かしく。

【現代語訳すると】

夕方に御用事があります。御祇候下さいとのことを伝えよとのことです。かしこ。

【解説】

前号の文書と同じように、本来は、山科言継の筆にかかる『諷誦文案』の紙背文書として伝わった文書。言継に充てて、夕方に祇候するようにという天皇の命を伝えたもので、ごく短時間の中に要件が果てる軽微な内容であるだけに、折紙という簡略な形式が用いられたのであろう。